**メルヒオール**

**MB&F と歩むL’Epée 1839**

ジュネーヴに本拠を置く2005年創業の時計メーカーMB&Fは、2015年に10周年を迎えます。この一大イベントを記念して、「クリエーティブな大人は、長生きした子供だ」をテーマに、1年を通じてアニバーサリーピースを発売します。その第1弾、老舗メーカーL’Epée 1839と共同で創作したメルヒオールは、子供の頃の夢を思い起こさせるインプレッシブな動的ロボットでありながらも480点の部品で構成される最高仕様の機械式置時計です。

実際に瞳から謎めいた輝きを放ち、脳と筋肉が生彩を帯び、右腕にロケット発射機、左腕にガトリング砲を携え、スティール及び真鍮のスマートな装甲を備えるメルヒオールは、ダースベイダーと戦う時に味方に欲しいロボットです。しかし、よく見てみると、メルヒオールはジャンピングアワー、スイーピングミニッツ、ダブル・レトログラード・セコンド、40日間パワーリザーブを特徴とする荘厳な最高仕様置時計であり、洗練されたクラシックな時計及び時計製造へオマージュを捧げています。

MB&Fのコンセプトラボで考案・開発し、スイス唯一の最高仕様時計製造所L’Epée 1839が技能を駆使して創り上げたメルヒオールは、Maximilian Büsser(マクシミリアン･ブッサー)の子供時代の渇望、「ロボットを友達に欲しい」という探究から誕生しました。

ブッサー曰く、「大昔、遠い遠い銀河では、人の親友はロボットでした」。「スターウォーズが大好きだった10歳の頃、R2-D2の様な人造人間なくしてルーク・スカイウォーカーは勝てないことを私は分かっていました。忠実で、機知に富み勇敢なロボットが、いつも彼の仲間を助けていたのです。ひとりの子供として、自分だけのロボットの友人を夢見ていました。メルヒオールは、子供のファンタジーを実現します」。

家族伝来の名前にちなんで、ブッサーはロボット時計にメルヒオールと命名しました。L’Epéeの最高仕様ムーブメントを選び、それをロボットの機械式ヘッド及びトルソーにイメージし直し、デザイナーであるチン・ワンとコンセプトを展開しました。メルヒオール胸部のジャンピングアワー及びスイーピングミニッツは、MB&Fのシグネチャーニュメラルを支えるディスクを介して、腹甲に合体したポインターが表示します。メルヒオールの腹部にあるダイヤルは、パワーリザーブのインジケーターです。このロボットの自立性は賞賛に値します。多くの置時計のパワーリザーブが8日間であるのに対し、メルヒオールの波打つトルソーを構成する5つのメインスプリングバレルによって、繊細な仕上げを施した可視性の高いムーブメントが40日間のパワーリザーブを確保します。これらバレルは、性能を最適にするためにシリーズとなっています。

メルヒオールの表情豊かなまなざしのレトログラードアクションは、20秒間隔で区切られます。それぞれが放射状のプロペラモチーフを支える固定ベントとリボルビングディスクのコンビネーションで、メルヒオールが目を閉じたり開けたりする印象を与え、結果として生じる瞬き効果が人の心を引きつける人間らしいパーソナリティーをロボットに与えるのです。

さらに、ポリッシュ仕上げを施したガラスのドームカバーを通して、レギュレーターの温和な拍動と複雑な構成が鑑賞できます。この保護ドームはスカルのように動き、レギュレーターがメルヒオールの働く脳を象徴しています。ボディーを支配する脳のように、レギュレーターは時計の優れた精密度を律するのです。

一緒にプレーできるロボットこそ真の仲間であり、メルヒオールは期待を裏切りません。回転するスティール製上腕と上下に旋回する前腕。悪者たちを木端微塵にやっつけるために、ロケット発射機又はガトリング砲の狙いを定める優れた運動性を備えています。取り外し可能なガンは、ムーブメントの巻上げ/調整キーとして二役をこなす巧妙な設計になっています。

**99点限定のメルヒオールには、モノクローム「ライト」バージョン又はブラックPVD処理を施した部品が特徴のツートーン「ダーク・アンド・ライト」バージョンがあります。**

**メルヒオールの詳細**

**ロボット兼置時計**

メルヒオールの480もの構成部品は、ムーブメントの50個の石以外、スイスのL’Epée アトリエでひとつひとつ加工し仕上げました。インプレッシブな334点の部品がムーブメントを、他の146部品はメルヒオールのボディーフレームと装甲を構成します。MB&Fのロボットコンセプトの独創性に応えるため、L’Epéeは新たに数部品を開発しなければなりませんでした。メルヒオールのスカルを形成するバルジングガラスドームのような部品の加工、仕上げ、アッセンブリーも、ガトリング砲に似せたステンレススティール製巻上げ/時刻調整キーを工作するのも、L’Epéeにとって初めてのことでした。

巻上げ/時刻調整キーは、メルヒオールの左ひじジョイントソケットにクリップ留めされています。それを支える小さなマグネットはキー固定には十分ですが、ムーブメント機能に影響するほど強くありません。キーは二重構造のスクエアソケットを構成し、メルヒオール背部のスクエアペグ両方にぴったりフィットします。ペグのひとつはムーブメント巻上げ、もうひとつは時刻調整用です。

MB&Fのデザインを基に、L’Epéeは求められる特性に従って注意深く素材を選び、変化に富むボディーフレーム及び装甲部品を丹念に開発しました。精密度が極めて重要である、例えばメルヒオールの動的部分又は精密ロケット発射機には、めっきを施した真鍮を用いました。装甲は主に、敵の攻撃から守る最適な耐性を持つステンレススティール製です。メルヒオールのボディーフレームに対しベベリング、鏡面研磨、サテン仕上げ、サーキュラーサテン仕上げ、サンドブラッシュそして研磨を含む目を見張らせるような巧みな仕上げを施しています。

マクシミリアン･ブッサーは「L’Epéeには驚かされます。一緒に働けるのは楽しい」。「いかに独創的で、いかに挑戦的なデザインであろうと、彼らは常に積極的に行動するのです」と語っています。

L’EpéeのCEOであるArnaud Nicolas(アルノー・ニコラス)も、相手に対するポジティブな感情を抱いているのは同じです。「MB&Fとのメルヒオール製作は、旋風に巻き込まれたようでした」。「メルヒオールは単なる置時計ではなく、永遠の子供である人々のための動く彫刻であり、多数のディテールにこだわっています。L’Epéeスタッフにとっても刺激的な技術チャレンジで、とても喜んでいます」。

アルノー・ニコラスはまた、「メルヒオールには威厳があります。初めて図面を見た時、これは素晴らしいものができると思いました。しかし、いかに特別なことが起きるのかを初めて実感したのは、最初のプロトタイプができた時です。MB&Fの創意で、私たちは再び人類未踏の場所に達したのだと感じました」とも言っています。

**メルヒオールのムーブメントとは**

メルヒオールの可視性の高いムーブメント製作のために、L’Epéeはパラジウムめっきを施した真鍮を用い、同じくパラジウムめっき真鍮製のムーブメントメカニズムを挟み込む、全く新しいスケルトン式メインプレートを開発しました。このメインプレートは、ロボットの胸部、腹甲、頬骨そして背骨を形成し、メルヒオール「ダーク・アンド・ライト」バージョンにはブラックPVD処理を施しています。

L’Epéeは、時間のクリアな視認性を高める、スローなジャンピングアワーを開発しました。この自社製コンプリケーションはアワーディスクが55分間静止しているのを確認後、新しいアワーになる前に5分間回転し、スムーズかつ巧みにアワーチェンジします。

ムーブメント調整はインカブロック衝撃保護システムを備え、時計の持ち運びによるダメージリスクを最小限に抑えます。この衝撃保護は、一般的に腕時計にのみ搭載されます。実際、メルヒオール専用の置時計ムーブメントは、歯車列、メインスプリングバレル（5点、シリーズ）、テンプ、ガンギ車、アンクルといった腕時計と同タイプの機構を搭載していますが、それらのサイズは大型です。

ムーブメントは、コート・ド・ジュネーヴ、ベベリング、研磨、サンドブラスト、サーキュラー及びバーティカルサテン仕上げなど、腕時計に見られる最高級の仕上げを特徴としています。しかし、置時計ムーブメントでは大型部品の表面が広いことから、仕上げには腕時計以上の困難が伴います。L’Epée のCEOアルノー・ニコラスは、「部品のサイズが倍になると、仕上げ時間も倍になるというような単純なことではなく、一気に複雑になるのです。例えば研磨では、腕時計ムーブメントの仕上げと同じプロセスをより広い表面に適用します。この工程での偏りは仕上がりに影響するので、均等な圧力をかけるための手際の良い安定した技能が求められます。

**メルヒオールという名前**

フィクションのロボットはたいてい、HAL 9000、C-3PO或いは K-9といった、頭字語又はリファレンスナンバーのようなあだ名を持っています。しかし、マクシミリアン･ブッサーはメルヒオールという名にこだわりました。

「ブッサー 家では、15世紀から500年以上にわたって長男にメルヒオール又はバルタザールと命名してきました。私の祖父はメルヒオールという名でしたが、それを嫌がって、皆にマックスと呼ばせていました。そして私もマックスと名付けられたのです。私の祖父はメルヒオールやバルタザールという名を嫌い、私の父にマリオと名付け、500年に及ぶこの伝統に終止符を打ちましたが、100年経った今、私はメルヒオールという名に愛着を覚えたのです」と説明しています。

**メルヒオール：技術仕様**

メルヒオールは99点限定で製作され、モノクローム「ライト」バージョン又はツートーン「ダーク・アンド・ライト」バージョンがあり、後者はブラックPVD処理を施した部品を搭載しています。

**表示**

ジャンピングアワー及びスイーピングミニッツ：メルヒオールの胸部プレートを形成するツインディスクで、ひとつは時間を、もうひとつは分を表示し、両方ともMB&Fのシグネチャーニュメラルが特徴です。

レトログラード・セコンド：スティールマスクの裏側で、フライバックディスクが20秒間隔で区切ります。

パワーリザーブインジケーター：腹部のダイヤルが、残存エネルギーを直観表示します。

**ムーブメント**

L’Epée社内でデザイン・製作したムーブメント

振動数: 18,000 bph / 2.5Hz

バレル: 5点、シリーズ

パワーリザーブ: 40日間

ムーブメント構成部品: 334点

石: 50個  
  
インカブロック衝撃保護システム  
  
パラジウムめっき真鍮製機構

手巻き：二重構造のスクエアソケットキーによる時間調整/ムーブメントの巻上げ。  
  
ムーブメント仕上げ：コート・ド・ジュネーヴ、ベベリング、研磨、サンドブラスト、サーキュラー及びバーティカルサテン仕上げ

**ボディーと装甲**

サイズ: 30.3cm x 21.7cm (腕の位置による) x 11.2cm

重さ: 6.3kg

ボディー/装甲構成部品：146点

*ヘッド*

ドーム：研磨しベベリングを施したパラジウムめっき真鍮製ベゼルを介したねじ込み式研磨ガラス  
  
ステンレススティール製レトログラード・セコンド表示  
  
ムーブメントのメインプレート：パラジウムめっき真鍮

*トルソー*

腹甲(時針及び分針を形成)：パラジウムめっき真鍮

腹部(パワーリザーブインジケーターフレーム)：ステンレススティール

胸部/脊柱(スケルトン式メインプレートが形成)：パラジウムめっき真鍮

*脚部*

骨盤、大腿部、向う脛及び脚：ステンレススティール

腰(骨盤につながる長い中央バー)：ステンレススティール

*肩及び腕*

肩、上腕、前腕ソケット：ステンレススティール、左腕ソケットにマグネット

右前腕：ねじ込み式ロケット、クロムめっき真鍮製ボディー及びステンレススティール製弾頭

左前腕：ガトリング砲/取り外し可能なステンレススティール製巻上げキー、パラジウムめっき真鍮製

ボディー及び装甲は、ベベリング、鏡面研磨、サテン仕上げ、サーキュラーサテン仕上げ、サンドブラスト、研磨で仕上げます。メルヒオールのツートーン「ダーク・アンド・ライト」バージョンでは「肩」、「骨盤」及びスケルトン仕上げメインプレートにブラックPVD処理を施しています。

**MB&F – 受賞歴を誇るコンセプトラボ**

2005年、ジャガー・ルクルト（Jaeger-LeCoultre）の経営チームの一員として7年間働き、さらにジュネーブのハリー・ウィンストン・レアタイムピース（Harry Winston Rare Timepieces）で業務執行取締役として7年過ごしたマクシミリアン･ブッサーは、世界初のホロロジカルコンセプトブランドMB&F – Maximilian Büsser & Friends（マクシミリアン･ブッサー＆フレンズ）を創業しました。MB&Fは、ブッサーが厳選した少数精鋭のハイパークリエイティブな人々で構成されるグループ作業によって、究極のホロロジカルコンセプト開発に専心しています。MB&Fは伝統を尊重しながらもそれに束縛されることなく、三次元の機械仕掛け彫刻を創作するために伝統的高級時計製造と最新鋭テクノロジーを融合し、カタリストの役割を果たしているのです。

2007年、MB&Fは初のHorological Machine（ホロロジカルマシン）を世に送り出しました。彫刻の様な三次元ケース及び美を追求して仕上げた機構は、特異ともいえる同社マシンの基準となりました。時を告げるマシンというよりもむしろ、時に作用するマシンの誕生でした。2011年には、MB&FはラウンドケースのLegacy Machine（レガシーマシン）コレクションをを発売しました。MB&Fの視点ではより伝統に傾倒した作品であり、時計製造における偉大な改革者たちが現代芸術オブジェを創作するために生み出したコンプリケーションをリメイクし、19世紀の卓越した時計製造技術へ賛辞を贈っています。MB&Fは2011年から、新しいエキサイティングなホロロジカルマシンと歴史からインスパイアしたレガシーマシンを交互に発表しています。

2012年のジュネーヴ時計グランプリにおいて、MB&FのLegacy Machine No.1は大衆賞(ホロロジーファンによる投票)及びベスト紳士腕時計賞(審査員による投票)を受賞しました。2010年の同グランプリでは、MB&FのHM4が「Best Concept and Design Watch」(ベストコンセプトアンドデザインウォッチ)に選ばれました。

**L’EPEE 1839 –スイス第一級の時計製造所**

L'Epéeは175年以上、時計製造の第一線で活躍してきました。今日、高性能時計製造を専門とするスイス唯一の製造所です。Auguste L’Epée(オーギュスト・レペ) がブザンソン近郊で1839年に創業したL'Epéeは当初、オルゴールと腕時計の構成部品製造に携わっていました。L’Epéeの顕著な特徴は、全ての部分が手作りであることです。

1850年以来、製造所は目覚まし時計、置時計、ミュージカルウォッチに特化したレギュレーターのメーカーとなり、「プラットフォーム」エスケープメント生産においてリーダーシップを発揮しました。1877年までに、年間24000点のプラットフォームエスケープメントを製造していました。同製造所は、アンチノッキング、オートスタートそしてコンスタントフォースエスケープメントなど特殊なエスケープメントの特許を多数保有する著名な専門メーカーであり、また現在世に知られている複数の腕時計メーカーへのエスケープメントのサプライヤーでもあります。L'Epéeは、国際展示会において数々の金賞を獲得しています。

20世紀には、L'Epéeは最高級旅行用携帯時計でその評判を高めましたが、多くの人にとってL'Epéeは影響力と権力を持った人が所有する時計であり、フランス政府関係者から上流階級ゲストへの贈与品としても選定されていました。 1976年にコンコルドが超音速航空機として商業就航した際には、L'Epéeの柱時計が客室の装備時計として選定され、乗客への時間の視覚的フィードバックに使われていました。 1994年には、L'Epéeはチャレンジ精神に突き動かされ、調整された振り子が付いた世界最大の時計Giant Regulator(ジャイアント・レギュレーター)を構築しました。 高さ2.2メートル、重さ1.2トン、機械式ムーブメントだけでも120キロの重さがあるこの時計製造には、2800人時の作業を要しました。

L'Epéeは現在、スイス、ジュラ山脈のドレモンに拠点を置いています。L’Epée1839は CEOのアルノー・ニコラス主導の下、洗練されたクラシックな旅行用時計、現代のデザインクロック（Le Duel）、およびアバンギャルドなミニマリスト時計（La Tour）ラインナップを含む、最高級置時計のコレクションを展開しました。 L’Epéeの時計は、レトログラード・セコンド、パワーリザーブインジケーター、万年カレンダー、トゥールビヨン、および打鈴機構を含むコンプリケーションを特徴としており、すべてが社内でデザイン・製造されています。 超長時間のパワーリザーブは、最高水準の仕上げと共にブランドのシグネチャーとなっています。